

ドイツの歌詞と韻律

近代ドイツの音楽作品の歌詞は原則として韻文である。

前近代ではその限りではない。(例：ハインリッヒ・シュッツは聖書の多くの散文歌詞を作曲した。) また現代でもその限りではない。(また、現代のドイツ文学では韻文と散文の境界線も曖昧である。) ただしポピュラー音楽では現代にも韻文歌詞が圧倒的に多い。

ドイツ語の韻文の特徴

韻文には種類が多いが、ここでは歌曲(芸術歌曲、讃美歌、民謡、オペラのアリア、学生歌、ポピュラーソング等)にもっとも一般的に扱われている韻文だけを説明する。その特徴は

- ・言葉が詩行 (Verszeilen) と節 (「せつ」、Strophen) で形式的に区切られていること
- ・強弱の音節 (Silben) が整えられていること
- ・脚韻 (Reim) を踏んでいること

である。

韻文の特定の表記法

韻文を譜面の下ではなく独立した詩 (Gedicht) として表記する場合、手書きにしても印刷物にしても、詩行毎に改行し、節と節の間に1行を空ける。また多くの詩集には各詩行を頭文字から始める習慣が見られる。(ただしドイツの讃美歌の歌詞は節・詩行・脚韻を有する韻文だが、讃美歌集には伝統的に詩行毎に改行せず、散文のように続けて表記することになっている。)

強弱の音節の整え方

与えられた詩の形式を理解するにはまず、強弱の音節がどのように整えられているかを確認する必要がある。ドイツ語を母国語とする人から見ればそれはほとんど「言語感覚」で解決する問題であるが、ドイツ語を外国語として学ぶ学習者から見ればもっとも厄介な問題は、どの音節が「強音節」(Hebung) として認められるかを定めることである。その問題が解決しなければ詩の適切な朗読も歌曲の音楽的な解釈も不可能である。

詩の中で形式的に「強音節」と見なされる音節は、散文として読み上げられたドイツ語の文の「アクセント付き」の音節(「強勢アクセント」とある程度一致しているが、完全に同一ではない。

(a) 二つ以上の音節から構成される単語では、辞書に明記されている「強勢アクセント」は詩の中でも原則的に「強音節」になる。また、一音節語が複数続く場合は、意味を持つ単語を強音節と見なす場合が多い。(例えば一音節語である名詞に定冠詞や一音節の前置詞などが付く場合は、定冠詞や前置詞が弱音節 (Senkung)、名詞が強音節になる。)

例1 : Den Schiffer im kléinen Schiffe [...]

Er scháut nur hináuf in die Hóh.

それ以外の一音節語、または三つ以上アクセントを持たない音節が続く場合は、この段階では「強音節になる資格も弱音節になる資格も持つ」と見なすのが良い。

(b) 同じ詩行の中では、強音節が二つ以上続くことはない。また弱音節は三つ以上続かない。つまり、強音節と同じ詩行にある次の強音節の間には必ず一つまたは二つの弱音節が位置する。このルールによって(a)のルールによって強か弱か分からない音節の一部が決まるが、複数の可能性が生じる場合もある。

例2 : Und rúhig fließt der Rhéin.

ruhig と Rhein のアクセントが(a)のルールによって決まっているので、(b)によって必然的に fließt に強音節が位置する。

例3 : Das kómmt mir nícht aus dem Sínn. または Das kómmt mir nícht áus dem Sínn.

この二つの可能性が実際に存在し、朗読者または作曲家がその中のどちらかを選択しなければならない。あるいはこの「das」が重要なことを指すものとして「意味を持つ単語」と見なせば

例3 a : Dás kommt mír nicht áus dem Sínn.

も可能かもしれない。(ただしこの可能性は以下に説明する別のルールによって除外される。)

(c) (b)のルールによって必然的にそうなる場合もあるが、三つ以上の音節から構成される単語にはメインのアクセントだけではなく、二つ以上の強音節が置かれる場合がある。

例4 : Im Ábendsónnenschéin.

その場合にはできる限り単語の構成要素の自然のアクセントに従う。それが難しい単語は韻文で避けられる。(例えば Deutschunterricht でメインのアクセントが Deutsch にあって、Unterricht のアクセントが U にあるので、どのように強音節を付けても(a)または(b)のルールに反する結果になる。)

(d) 文の中で強調されない二音節語は、単語としてアクセントを持ったとしても、韻文では「弱弱」とされる場合もある。

例5 : Das hát eine wúndersáme

(この場合も Dás hat éine wúndersáme の読み方も可能に見えるが、それは以下に説明される別のルールによって除外される。)

(e) 詩行は「強弱」の2音節で始まる場合と「弱強」の2音節(まれに「弱弱強」の3音節)で始まる場合がある。前者は「強弱格の韻律」(trochäisches Metrum)、後者は「弱強格の韻律」(jambisches Metrum)と言う。普通は一篇の詩の中で強弱格と弱強格を混ぜない。(統一しない場合にはその混

ぜ方が全ての節で同じパターンに従う。)

Loreley の場合は例えば第二節では全ての詩行が明らかに「弱強」で始まるので、全ての詩行が弱強格だという判断が付く。それによって例 3a の可能性が除外される。

(f) 詩行は「強弱」の 2 音節で終わる場合と（弱音節に続く）「強」の 1 音節で終わる場合がある。前者を「女性終止」(weiblicher Schluss)、後者を「男性終止」(männlicher Schluss) という。女性終止と男性終止を交代させたり、特別なパターンに従わせたりするが（一つの詩ですべてをどちらかに統一させる場合もあるが）、いずれの場合もそのパターンが各節で同じように起こる。

Loreley に見られるパターン（奇数の行は女性終止、偶数の行が男性終止）はドイツの詩でもっともよく使われているパターンの一つである。

(g) ルール (e) と (f) の区別以外にもっとも重要なのは 1 行当たりの強音節の数 (Zahl der Hebungen) である。そのパターンもすべての節で同じく起こるが、Loreley ではすべての詩行に三つの強音節が置かれている。一般的に一詩行に三つから六つの強音節を置かれる場合がもっとも多いが、歌われる詩では三から四の場合がもっとも多く使われている。

(h) 夏学期で学んだ韻文（6月8日の資料）では強音節と強音節の間に置かれる弱音節の数も詩全体で統一されていたが、Loreley ではこのような統一がなく、各詩行の音節数は決まっていない。例えば第一節の第一行は 9 つの音節、第二節の第一行は 8 つの音節、第三節の第一行は 7 つの音節によって構成されている。

節の構造

「有節の詩」はこの名称の通りに複数の節に分かれるが、各々の節は原則としてそれぞれ同じ形式 (Form) を持つ。その形式は

- ・ 詩行の数
- ・ それぞれの詩行の属性（上記(e), (f), (g)で述べた形式面）
- ・ 詩行と詩行の間の脚韻関係

という性質によって特徴付けられ、その性質は最初から最後まで変わらず全ての節に繰り返される。

Loreley の場合は以下ようになります

第一、第三行は弱強格、女性終止、三つの強音節

第二、第四行は弱強格、男性終止、三つの強音節

脚韻の踏み方

原則として詩行の終止で脚韻を踏む。脚韻は

- ・ 一音節韻（男性終止の場合）と
- ・ 二音節韻（女性終止の場合）

の2種類に分かれる。

一音節韻では男性終止で終わる2つの詩行のそれぞれ最後の音節が別々の子音から始まる（下記の例の wunderbar、Haar）が、類似する母音と子音で終わる（wunderbar、Haar）。

二音節韻の場合は最後の強音節が一音節韻と同じ扱いで（下記の例では sitzet、blitzet）、その後の弱音節は同じ響きを持つものでなければならない（sitzet、blitzet）。

例：Loreley の第三節の場合

Die schönste Júngfrau sítzet
Dort óben wúnderbár;
Ihr góld'nes Geschméide blítzet,
Sie kámmt ihr góldenes Háar.

つまりこの詩では第一行と第三行、第二行と第四行がそれぞれ脚韻を結ぶ。

用語集

das Gedicht, die Gedichte	詩
der Text, die Texte	テキスト、歌詞
der Vers, die Verse	短い韻文、韻文の節（特に民謡・讃美歌において）
die Strophe, die Strophen	節
die Verszeile, die Verszeilen	詩行
der Reim, die Reime	脚韻
männlich	男性の、韻文において強音節で終わる詩行または脚韻
weiblich	女性の、韻文において強弱で終わる詩行または脚韻
der Schluss, die Schlüsse	終止（ここでは詩行の）
das Metrum, die Metren	韻文の形式・種類
die Hebung, die Hebungen	（Metrum によって生じる）強音節
die Senkung, die Senkungen	（Metrum によって生じる）弱音節または弱音節句
jambisch	弱強系
trochäisch	強弱系
die Form, die Formen	形式

宿題（10月19日手書きで提出）

Loreley の詩を書き写して、上記のルールに従って強音節を記入して下さい。

また、各行の右にその行の音節数を明示して下さい。

記入例：

Ich wéiB nicht, was sóll es bedeúten, (9)

音節の概念に疑問がある場合には以下の資料をご参照ください。

<https://deutsch.c.u-tokyo.ac.jp/~Gottschewski/audimelius/silben.pdf>